

令和元年度 嶺北特別支援学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 学習指導 (小学部 低学年)	a 児童の自ら人や物に関わる姿を引き出すための教師の支援(児童への働き掛けや関わり方、声掛けの仕方、環境設定)について教師間で検討し、共通理解を図る。	<p>「取組指標」(A、B)の合計は100%であり、目標指数は達成できた。学部研究で発達段階に応じた関わり方等についての研修を行ったことの結果と思われる。「成果指標」(A、B)の合計も90.5%であり、目標指数は達成できた。学んだことを実践に生かすことができたのではないかとと思われる。</p> <p>「取組指標」でAを選んだ13名全員が特に配慮した事柄について、「声掛け」や「働き掛け」を選んでおり、さらにそのうち9名が「成果指標」でAを選んでいて、このことから、教師の声掛けや働き掛けが与える児童への影響の大きさを確認することができた。</p> <p>「満足度指標」も100%であったものの、具体的な項目についての回答がほとんど得られず、教職員と保護者の実感を照らし合わせることはできなかった。</p>	引き続き、教師間の研修に努め、児童の発達段階に応じた教師の支援を充実させていく。さらに、授業場面のみでなく、学校生活全体への支援の充実も図る。保護者にも回答しやすいように、アンケートの形式を見直す。
	b 一人一人の発達段階や実態に基づいた目標を設定し、その目標を達成するための課題設定に取り組む。	「取組指標」(A、B)の合計は95.3%であり、目標指数は達成できた。「成果指標」(A、B)の合計も85.7%であり、目標指数は達成できた。D(あまり達成できなかった。)の回答は0%であった。「満足度指標」(A、B)の合計は100%であり、適切な課題設定であったのではないかと考える。	今後も、客観的なアセスメントと日常の観察による児童の発達段階の把握に努め、さらに保護者や本人のニーズを踏まえたうえで、適切な課題設定、および目標達成に取り組んでいきたい。
2 教育課程 学習指導 (小学部 高学年)	a 児童の実態を正確に把握した上で「個別的教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成し、明確な目標を設定する。	<p>「取組指標」(A、B)、「成果指標」(A、B)の合計は共に100%であり、どちらも目標指数は達成できた。児童の実態を正確に把握するために、学部全体で教種類のアセスメントを実施したり、授業研究会で指導方法について定期的に話し合いをしたりしていることが、教師の意識を高める結果につながっていることが伺える。</p> <p>「満足度指標」においては、全ての保護者が子どもの成長を感じており、E(変わっていない。)は1名もいなかった。項目では、「学習面」が一番高く29.4%、次いで「社会生活面」「日常生活面」「身体面」の順であった。</p>	どの指標においても目標指数は達成できたが、これを継続するためには、以下の4点が大切と考える。 ①児童の実態を客観的に捉えるために、教種類のアセスメントを有効的に活用する。 ②継続性のある学部(高学年)単位の長期目標と、それを実現するための毎年の短期目標を設定して、それらを念頭に置いて授業実践を行う。 ③保護者との懇談において、児童の様子を的確に伝え、十分に共通理解を図る。 ④教師同士の十分な話し合いと教材作り等の授業準備の時間を確保する。
	b 集団に自ら参加しようとする意欲を引き出す指導の工夫に取り組む。	<p>「取組指標」(A、B)、「成果指標」(A、B)の合計は共に95.0%であり、どちらも目標指数は達成できた。C(あまりできなかった。(あまり見られなかった。))と回答した割合は、「取組指標」「成果指標」で共に5.0%であった。基本的な身辺自立や生活習慣の確立を重点目標としている児童もおり、集団活動に対する意欲を引き出す機会を持つことができなかったと考える。</p> <p>「満足度指標」(A、B)の合計は92.6%であり、目標指数は達成できた。C(あまり行っていない。)の回答は7.4%であった。児童の集団活動への参加意欲を引き出す支援方法については、継続して研究していく必要がある。</p>	「取組指標」「成果指標」共に目標指数は達成できたが、集団活動を好まなかったり、身辺処理に時間が掛かったりして、現時点では集団活動に参加することが難しい児童もいる。そのような児童に配慮しつつ、社会で自立できる児童の育成を目指して、以下の2点に留意することが大切と考える。 ①児童の実態を把握し、集団活動への意欲を引き出す声掛けや支援の方法を学部全体で工夫する。 ②保護者との懇談で、集団活動に向けてどのような支援が必要か話し合い、共通理解を持つ。
3 教育課程 学習指導 (中学部)	a 生徒の発達段階やニーズを踏まえて「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」を作成し、具体的な目標を設定する。	<p>「取組指標」(A、B)の合計は95.8%、「成果指標」(A、B)の合計は83.3%であり、どちらも目標指数は達成できた。教師の目標設定や取組はおおむね適切で、指導に一定の成果があったと考えられる。しかし、「取組指標」のA(十分にできた。)の回答は20.8%、「成果指標」のA(どの項目においても、十分達成できた。)の回答は8.3%で、それぞれ少ないことが分かる。中学生のこの時期に、将来に向けた中・長期的な種々の目標を設定し、継続的な支援や指導に取り組んでいるため、すべてのことにおいて十分に成果があったとまでは言えないと感じているのではないかと推測する。</p> <p>「満足度指標」においては、ほとんどの保護者が子どもの成長を感じており、「日常生活面」が一番高く27.9%、次いで「社会生活面」「身体面」「学習面」の順であった。C「学習面」、D「身体面」への回答があまり高くないこと、また、E(変わっていない。)に回答が1件あった。期待どおりに成長していないとの保護者の思いもあることを真摯に受け止めたい。</p>	どの指標においても目標指数は達成できたが、教師は十分に目標設定ができ、生徒に十分な成果があったとの気持ちをあまり持つことができていない。今後は、学級の正副担任を中心に、各生徒に関わる複数の教員同士で生徒の発達段階やニーズを詳細に把握し、より具体的、直接的な目標を立てるようにする。また、生徒の重点指導項目についても、一つ一つ達成した具体的な成果を担当教師間で確認し合うようにする。 保護者には、これまで以上に、子どもの変化や成長を理解しやすいように、日々の連絡や懇談会を通して、実態や課題、目標設定などを共有し、具体的な様子をもっと分かりやすく伝えたり、特に学習面や身体面で、成長した力をしっかり発揮できる発表などの機会を設定したりして、積極的に保護者へ発信できるようにする。
	b 生徒の実態に応じ、体育大会や文化祭などの行事に向け、集団の中で役割や協力を意識した授業を行う。	<p>「取組指標」(A、B)、「成果指標」(A、B)の合計は共に91.7%であり、どちらも目標指数は達成できた。しかし、どちらも、A(十分にできた。(十分見られた。))と回答した割合は25.0%と多くなく、C(あまりできなかった。(あまり見られなかった。))と回答した割合は共に8.3%であった。生徒の実態によって、集団参加や集団の中での役割、協力という観点の位置付けが個々に異なり、生徒一人一人の学習場面や行事ごとのねらいを設定したり、教師間で共有したりして指導していくことの難しさがあったのではないかと推測する。</p> <p>「満足度指標」(A、B)の合計は82.7%であり、目標指数は達成できた。C(あまり見られなかった。)の回答が4件(13.8%)、D(まったく見られなかった。)の回答も1件(3.4%)あった。集団参加、集団の中での役割や協力について、子どもの姿の捉え方に保護者と教師の間で情報の共有が足りなかったのではないかと推測する。</p>	「取組指標」「成果指標」共に目標指数は達成できたが、個別的に考えると、集団活動への参加の意義や方法、集団における役割や協力をどのように捉え、考えるかが課題となる生徒もいる。中学生になり、生活年齢とともに、各生徒の実態に配慮しつつ、生徒一人一人の集団参加のねらいを適切に設定して、さらに成長や自立を促していきたい。そのために、生徒の実態をより詳細に把握し、集団活動への意欲を引き出したり、役割や協力の場面を生み出したりできる支援方法を検討するようにする。また、保護者との懇談などの機会でも、集団での活動に向けてどのような支援が必要かを話し合い、共通理解を持つようにする。

<p>4</p> <p>教育課程 学習指導 (高等部)</p>	<p>a 卒業後に必要な力を身に付けられるよう、生徒一人一人に応じた適切な課題を設定し、指導を行う。</p>	<p>「取組指標」(A、B)の合計は100%、「成果指標」(A、B)の合計は94.9%であり、どちらも目標指数は達成できた。C(あまりできなかった。)と回答した割合は、「取組指標」で0%、「成果指標」で5.1%あり、教師は自ら働く意欲を持たせる活動設定や支援をして指導を行ったが、一部の生徒について自ら働く意欲を持って、活動に取り組むことができていなかったことが伺える。</p> <p>「満足度指標」については、E(変わっていない。)と回答した保護者は5.5%であったが、目標指数(10%以下)は達成できた。また、保護者が我が子の成長を感じているのは、「基本的な生活習慣面」が最も多く、次いで「作業スキル面」であった。</p>	<p>どの指標においても目標指数は達成できたが、生徒一人一人が卒業後に必要な力を身に付けられるようにするためには、生徒個々の実態や適性を正確に捉えて目標を設定し、授業実践を行うこと、現場実習等での第三者の評価を含めて実践の見直しや指導の改善を促すことが大切である。</p> <p>保護者との懇談においては、「個別の支援計画」や「個別の指導計画」を用いて、生徒の日々の様子を的確に伝えること、実習の評価等を踏まえて実態の共通理解を図ることが必要である。</p>
<p>5</p> <p>教育課程 学習指導 (訪問学級)</p>	<p>a 日々、一人一人の状態に応じた適切な授業時間を設定し、丁寧に関わる。</p>	<p>「取組指標」「成果指標」「満足度指標」すべてにおいて、目標指数は達成できた。医療との連携や保護者との信頼関係の構築を特に意識し、児童生徒が安心して授業を受けられるよう取り組んだ結果である。朝の観察を基に看護師と情報交換を重ねる中で、コミュニケーションが増え、状態把握や授業調整がしやすくなった。授業中の状態変化に気づき、早期の対応に結びついたこともあった。</p> <p>「取組指標」のB回答(おおむねできた。)については、他医療機関への長期入院や病状把握、退院後全体の中での授業時間の調整が困難であったことによる。「成果指標」がすべてB回答(おおむねできた。)であることは、児童生徒が常に医療を必要とし、ベッドサイド学習が多い中、落ち着いた環境設定が困難であることを表している。児童生徒が落ち着いて授業に取り組むことができる支援が課題となる。</p> <p>「満足度指標」がすべてA回答(丁寧に関わっていた。)であったことは、面会時や病院行事での児童生徒への教師の関わりや「訪問だより」、学習の記録などを通しての結果であると思われる。保護者が授業を見る機会は少ないので、授業の様子を伝える方法については検討の余地がある。</p>	<p>児童生徒の状態把握について、基本的知識としての病気の理解、病状の把握、注意・配慮事項の確認を、医療を必要とする児童生徒に関わる教員として、強く意識しなければならない。また、保護者について、家庭の状況に配慮しながら児童生徒の様子を伝えていくことを、常に意識して行っていく必要がある。</p> <p>そのため、以下のようことが考えられる。</p> <p>①病状について、医学書やカンファレンスなどを通して、基本的理解を深める。病状の変化に応じ、適切な時期に情報を得て把握する。(情報を得ることへの保護者の了解、病院が教師に伝えてよい範囲での情報)</p> <p>②夜間の様子や疑問に思ったことを確認し、早い時点で教師同士で共通理解を持つ。</p> <p>③授業時間について、感染予防の点から、同病室の状況や病棟全体の状況にも目を向け、看護師との連絡調整を慎重に行う。</p> <p>④必要な電話連絡や郵送の際、保護者に児童生徒の様子を伝えたり、個別のミニ通信などを入れたりするなど、より伝わりやすい工夫を行う。</p>
<p>6</p> <p>教育課程 学習指導 (寄宿舎)</p>	<p>a 「個別の支援計画」に基づいて、寄宿舎生の自立を目指し、社会に適応する力を高めるように支援を行う。</p>	<p>「取組指標」(A、B)の合計が96.6%であり、「成果指標」の結果から、職員全員が「寄宿舎生が、自立に向けて成長した。」と実感している。「個別の支援計画」に基づいて指導ポイントを明確にし、日々の実践を行うことで子どもの成長に結び付けることができた判断できる。</p> <p>「満足度指標」では95.0%の保護者が「子どもは、自立に向けて成長した。」と判断していることから、保護者にとっても「個別の支援計画」に基づいた観点で、我が子の変化を捉えていると考える。一方で、3人の保護者が、C(期待したほどは成長しなかった。)と回答しており、ケースによっては「個別の支援計画」に掲げた目標や支援方法を見直すことも必要である。</p>	<p>C(期待したほどは成長しなかった。)と回答した保護者が5.0%おられた(中学部1人、高等部2人)。中学部生や高等部生の身辺処理能力やQOL向上など、子どもの生活全般を細かく観察し、保護者のニーズを設定する段階から十分に意見交換を図っていききたい。また、懇談会だけでなく、連絡帳や帰省時などの機会を捉えて、日頃の様子の情報交換を密にしながら、丁寧に対応していききたい。</p>
<p>6</p> <p>教育課程 学習指導 (寄宿舎)</p>	<p>b 日常生活の中で、基本的な生活習慣が身に付くように、一人一人に応じた支援の工夫に取り組む。</p>	<p>「取組指標」(A+B)の合計は100%であり、支援の工夫への努力が伺え、「成果指標」でも、96.5%の職員が「寄宿舎生は、基本的な生活習慣が身に付いた。」と実感している。</p> <p>「満足度指標」では、94.8%の保護者が「基本的な生活習慣が身に付いた。」と判断していることから、個に応じた支援の成果を実感できたと考える。一方で、3人の保護者が、C(あまり身に付かなかった。)と回答しており、個別支援の更なる工夫も必要である。</p>	<p>C(あまり身に付かなかった。)と回答した保護者が5.2%おられた(中学部2人、高等部1人)。今後、児童生徒の生活全般を細かく観察し、一人一人の興味関心の高いことや分かりやすい手段をしっかりと判断していく。その上で、視覚支援や支援グッズの活用、日常的な対話や「ライフタイム」などでのきめ細やかな支援を更に工夫し、家庭にもつなげていきたい。</p>

<p>7</p> <p>健康・安全</p>	<p>a 保健指導 児童生徒の行動や体調を把握し、教職員間で共通理解を図るとともに、けがの防止や病気の予防に努める。</p>	<p>「取組指標」(A、B)の合計は97.1%、「成果指標」(A、B)の合計は94.8%であり、どちらも目標指数は達成できた。これは、熱中症やインフルエンザ等の感染症の情報や対策について、校内放送や校内メッセージで注意を促したことや、救急法講習会、アレルギーに関する研修などを行った成果と考える。また、体重測定後の養護教諭によるミニ保健指導や、けがをした際に原因や対応策を検討し、改善を促したことも効果があったと考える。少数ではあるが、「取組指標」のC(あまりできなかった。)という結果については、どのような手立てが必要か、今後、検討が必要である。 「満足度指標」(A、B)の合計は97.0%であり、目標指数は達成できた。しかし、C(あまり取り組んでいなかった。)、D(まったく取り組んでいなかった。)の回答が3.0%あり、学校での状況や取組が保護者に伝わっておらず、協力が得られなかったと言える。</p>	<p>感染症や熱中症などの対策や情報発信は、これまでどおり行うとともに、病気予防については、児童生徒の状況に合わせた対応がなされているか、学部ごとに状況を確認しながら進める必要がある。また、けがの防止については対応策を考え、環境整備が必要な場合は早急に対応するとともに、メッセージを活用し、全校で共有して再発防止に努めるようにする。 保護者に対しては、子どもの健康状態や行動について、連絡帳や電話で確実に伝えて十分に連携を取ったり、お便りを通じて学校全体の状況をお知らせしたりするなどして、学校での様子が分かるようにする。また、健康面で気掛かりなことや質問など、気軽に相談できる機会を増やすようにしていきたい。</p>
	<p>b 安全指導 警察と連携して教職員の防犯研修を行い、学校の安全確保に努める。</p>	<p>「取組指標」(A、B)の合計は96.0%であり、研修を通して大いに防犯意識を高めることができたことが伺える。「成果指標」(A、B)についても合計が91%を超え、不審者侵入時の児童生徒の安全確保について概ね理解できたのではないかと考える。 保護者については、不審者侵入未然防止のために、登下校時間帯以外は正面玄関での受付、出入りに協力を依頼した。「満足度指標」(A、B)の合計が57.3%で目標指数に満たなかったが、D(登下校時間帯以外に学校に行くことがなかった。)の回答が31.2%であったため、概ね協力していただけたと考えてよいと思う。</p>	<p>教職員の防犯研修について、昨年度までは、不審者が教室まで侵入してしまったという設定で、不審者の制圧が目的の研修であった。しかし、今年度は、危機管理マニュアル「不審者への対応」に沿って、児童生徒の安全確保を第一に考え、教職員の安全にも配慮した研修を行った。来年度以降もマニュアルが教職員に定着するように進めていきたい。 保護者に対しては、登下校時間帯以外は正面玄関の事務で受付をしてから校舎に入るという手続きを行っていただき、不審者侵入未然防止の協力について定着を図りたい。</p>
<p>8</p> <p>生徒指導 進路指導</p>	<p>a 生徒指導(1) 体育大会や文化祭などの行事において、児童生徒の理解に努めるとともに、活動内容の創意工夫をして活動意欲を育てる。</p>	<p>各学校行事において、ゆとりを持たせ、安全で楽しいものとするように企画運営した成果として、教職員からは99.0%、保護者からは98%以上がA(十分取り組んでいた。(十分行っていた。))、B(おおむね取り組んでいた。(おおむね行っていた。))という評価を得ることができ、目標指数は達成できた。そのうち、70%以上の保護者が、A回答(十分行っていた。)であった。しかし、C回答(あまり行っていなかった。)も数名おられたので、更に個々の児童生徒のニーズに合った、積極的に参加できる活動を企画運営していきたい。</p>	<p>体育大会は、例年どおり小・中学部と高等部は別日に開催した。晴天の場合はグラウンド、雨天の場合は体育館で行う企画であったが、小・中学部の体育大会の日は、猛暑で、暑さ指数が禁止レベルになることが気象庁発表の予報で予測されていたため、リハーサル段階で、児童生徒の体調を考慮し、晴天の場合でも体育館開催とした。昨年度も、雨天で体育館で行ったため、大きな混乱もなく、それぞれの学部の児童生徒が、自分の役割を意識して活動できた。来年度以降、体育大会の実施場所、時期、内容などを徐々に検討していき、児童生徒が見通しを持って体育大会に臨めるようにしていきたい。 文化祭は、高等部生徒による準備や後始末が定着し、自主運営によってより充実感を味わうことができている。ステージ発表や校舎全体を使った様々な企画がなされ、学校中が大いに賑わいをみせた。高等部の製作品や野菜の販売も盛況であった。リフレッシュ工事に伴い、販売の場所などが今後更に制限されてくるので、来年度以降、更に工夫しながら、児童生徒が意欲を持って活動できるようにしていきたい。</p>
	<p>b 生徒指導(2) 児童生徒の人権意識や規範意識が高まるように心掛ける。</p>	<p>「取組指標」「成果指標」「満足度指標」すべてにおいて、目標指数は達成できた。「成果指標」(A、B)の合計は100%、「満足度指標」(A、B)の合計は97.6%であった。そのうち、A(いつも行っていた。)が半数以上の72.0%であるのは、十分に評価できる結果であり、本校でいじめの報告がないのも、教職員が十分な人権意識を持って支援を行っているためと考える。しかし、C(あまり行っていなかった。)、D(まったく行っていなかった。)と感じる保護者が少数でもおられたという結果を真摯に受け止めなければならない。</p>	<p>今後も継続して、日々の児童生徒の不適切な行動や発言に気を配るとともに、教職員自身も日々不適切な発言や行動をしないように心掛け、細心の注意を払う必要がある。教職員同士でも常に気をつけていかなければならないと考える。 人権を守ることは、学校教育での基礎と考え、これからも、教職員一人一人が人権意識、規範意識を常に持ちながら児童生徒に接するよう努めていきたい。</p>
	<p>c 進路指導 将来の生活への関心・意欲が高まるように、進路に関する情報提供や進路学習の充実を図る。</p>	<p>「取組指標」「成果指標」「満足度指標」すべてにおいて、目標指数は達成できた。特に「取組指標」の達成率が86.4%と高く、各学部で進路に関する情報提供および進路学習に取り組んだことが分かる。 「成果指標」をみると、中学部の79%、高等部の97%に対し、小学部低学年70%、小学部高学年65%と差が見られた。小学部の発達段階では将来の生活について意識を持つことが難しいこと、教師も児童の関心意欲を客観的に把握することが難しいためと考える。 「満足度指標」においては、高等部で89%と高い指数が得られた。高等部は卒業が間近に迫り、卒業後の生活や働くことについての行事や進路について考える機会が増え、関心が高まるからであると考えられる。</p>	<p>高等部は卒業を控え、進路について関心を持たせる学習機会や行事が多く、そのため毎年高い満足度を得ることができている。引き続き、生徒・保護者ともに意識と関心が高まるような学習や行事を計画し、参加を呼び掛けたい。 一方で小学部段階では、高等部に比べて自分の将来(子どもの将来)や進路について関心を持つことは難しい。しかし、挨拶や返事、友達と一緒に遊ぶ、簡単な係の仕事をするなど、日々の学習の中にも将来につながることは十分に含まれており、その力を育んでいくことも進路学習の一つであることを進路説明会やセミナーなどを通して周知していきたい。同時に、小学部、中学部段階でのニーズの把握に努めていきたい。</p>
<p>9</p> <p>保護者・地域との連携</p>	<p>a 地域の人と関わる活動を計画し、実践する。</p>	<p>指標に関して、教職員全体では目標指数は達成できたが、中学部については、目標指数は達成できなかった。「成果指標」については、小学部低学年のみ目標指数は達成できたが、その他の学部や教職員全体では目標指数を大きく下回った。「満足度指標」については、保護者全体で90%を超えた。 教職員は、地域の人と関わる機会は積極的に設けることができたが、児童生徒の地域の人との関わり方については十分ではなかったと評価した。保護者からは高評価を受けており、取組自体はよかったと考える。「成果指標」が低かった理由に、教職員の交流の捉え方や地域の人との関わり方に対する見解にばらつきがあったからではないかと考える。</p>	<p>各学部学年に対して、交流及び共同学習としてどのような活動が地域の人と関わる活動とするかを伝える場を作り、交流の捉え方や地域の人との関わり方について共通理解し、「成果指標」の目標指数を達成できるようにしたい。</p>